

正月号時報原稿は
12月15日までです
「たばこ」
村内の商店で
買いましょう

經濟自立化運動

十二月四日—十日まで

人權週間

始まる

養蚕の好景が続く

て強く心に留めたいもの
しかし、ほとぼりがさめ
るとまたまた反撥する気配
す。

田代村十大ニュース募集
(昭和三十四年)

過去一年間の村の歩みを反省し、
 町村に対する理解と関心を高め、往
 来しつづけるに資するため、毎年
 村内の十だニュースを広く村内か
 ら募集通じに居りますが、今年も
 左記の通り、三十四年度の田代村
 の十だニュースを募りますので、そ
 の趣旨を御了解下さいまして老若
 男女を問わず御投稿下さいませ
 りお願い申し上げます

記

一、内容 昭和三十四年中、村内
 における最も大きな出来事であ
 り、かつと思われることを十項目
 二、原稿締切 十二月十五日
 三、応募資格 制限しません
 四、用紙 何でも良いです
 五、原稿送先 田代村公民館
 六、審査方法 審査委員会で厳選
 七、発表、田代時報 正月号及年
 八、賞 始会
 三等賞 一等一点 二等二点
 三等三点

早期水稻の後作には
秋大豆を植えましょう

本年田代高校において、早
期水稲の後作に、緑肥兼、
飼料作物として、青刈大
豆を植えました。ところが
結果は非常に良好で写真で
示す通りです。



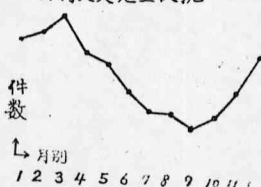
(写真青刈大豆)

二六二億五千万円が灰に

之は昨年中の全国火災による損害額です。
 このとも又火災の発生しやすい時期になりました。一年間の火災の発生件数を月から

年四月までが最も火災が多く発生しています。
 火災はチョツトの不注意

月別火災發生狀況



家畜市況

月日	出場 頭	売却 頭	売 総 額	上 格	最高	最低	平均	めすお す上 総平均
11.5	10	9	48,500		6,300	4,600	5,389	5.250
	7	7	35,500		6,500	4,000	5,071	
11.20	25	17	92,900		6,400	4,700	5.465	5.511
	22	20	111,000		6,100	4,800	5.550	

仔豚セリ市は毎月五日と20日です生産者はせり市の前日迄には出場頭数を御知らせ下さい。

月日	出飼頭数	主体量	枝肉代	精算金	K当平均
10.13	20	1.639	335.455	304.610	185円85銭
10.23	11	865	198.521	179.662	207.70
11.4	18	1.435	328.930	299.569	208.75
4月 5.10日	485	37.740	6,237.184	5,529.642	

此の7ヶ月間に月69.3頭平均出荷した事になりますが我が家の家計を豊かにする為にもつと肉豚を飼育して販売は其同出荷に致ししょう 今の所仔豚が少い状況ですが大いに生産する計画です。

性	売		却		平 均
	頭ス	価 格	最 高	最 低	
牝	(22)		(55,300)	(34,600)	(44,770)
	14	577,400	53,000	30,000	41,243
牡	(31)		(38,500)	(21,500)	(28,940)
	16	444,700	45,500	16,300	27,794
計	(53)				(35485)
	30	1,022,100	53,000	16,300	34,070

戸籍に関する情報は
ホームページ上では
掲載していません

短期當農資金(当座貸越)の返済は十二月二十五日まで

本村で初の
美術展

美術展」
美展開催代始め二十歳
出品される。
尚本村出身の上石田哲

伊勢灣台風による
郷土出身被害者より便り

身の方々の安否が気づか	去る九月伊勢湾方面を襲	松元 洋子	(山ノ口)
ました台風に当方面の村	松元 妙子	(山ノ口)	
上呼下母子			(久木賢)



記

附 表 5

I 財 産 表

1. 行政財産

(1) 土 地

(イ) 学校敷地

学 校 別	字	地 番	台 帳 面 積	筆 数	学 校 別	字	地 番	台 帳 面 積	筆 数
田 代 小 学 校	麓 中 郡	585外	4.980坪 31	22	田 代 中 学 校	麓 溝 下	478の1外	931坪 00	8
" "	"	607の1外2	256 00	2	大 原 小 中 学 校	" 新 村	4.830外	2.544 00	14
全 花 瀬 分 校	川 原 桑 木 迫	4.288	375 00	1	田 代 高 等 学 校	" 寺 山 首	1.393外	2.490 00	5
田 代 小 学 校	麓 中 郡	606の1外	600 61	7	計			12.176 92	

(ロ) 庁舎住宅等敷地

区 分	字	地 番	台 帳 面 積	筆 数	区 分	字	地 番	台 帳 面 積	筆 数
庁 舎	麓 原 前	827の1外	392坪 87	3	林 業 会 館	麓 原 之 前	836の2	72坪 00	1
川 原 保 育 所	川 原 宮 前	381の1	217 00	1	新 村 住 宅	" 新 村	4.828の1	1.165 00	1
溝 下 住 宅	麓 溝 下	477の1外	658 99	4	大 原 住 宅	" 大 原	4.734	364 00	1
営林署麓担当区事務所	" 中 原	555の5の6	104 30	2	川 原 消 防 会 館	川 原 柴 立	5.308の2	70 00	1
弘 川 住 宅	" 郷 尾	3.810 3.811	381 00	2	麓 駐 在 所	字 迫 田		34 51	
					公 民 館	字 原 之 前	827の3	391 00	
					計			3.850670	

(ハ) 学校実習地

区 分	字	地 番	台 帳 面 積	備 考	区 分	字	地 番	台 帳 面 積	備 考
中 高 校 実 習 地	麓 供 養 松	5.585外	72坪 19	畑	高 校 実 習 地	川 原 堂 ノ 後	5.569	24坪 15	畑
高 校 茶 園	" 長 尾	3.310の1外	37 13	"	大 原 中 学 校 実	字 新 村	3830 3831の1	4 02 4 10	計8坪12歩
中 学 校 実 習 地	" 溝 下	477の2	3 06	田	計			146 05	

(ニ) その他

区 分	字	地 番	台 帳 面 積	備 考
花 瀬 公 園 敷 地	川 原 花 瀬	4.119の外	15坪 25	山 林

(イ) 学校

学 校 別	構 造	建 坪	備 考	学 校 別	構 造	建 坪	備 考
田 代 小 学 校	木 造 平 家 瓦 葺	772 75	737	田 代 中 学 校	木 造 平 家 瓦 葺	475 00	511
" "	鉄 筋 二 階	195 00	195	大 原 "	" "	182 00	179
" 花 瀬 分 校	木 造 平 家 瓦 葺	101 00	99	田 代 高 校	" "	472 40	478
大 原 小 学 校	" "	284 00	284	計		2.482 15	

(ロ) 住宅

区 分	構 造	棟 数	建 坪	区 分	構 造	棟 数	建 坪
溝 下 住 宅	木造平家瓦葺	10	113 25	上 原 住 宅	木造平家瓦葺	1	17 00
弘 川 "	ブロック平家	2	72 00	新 村 "	" "	4	34 50
寺 山 首 "	木造平家瓦葺	1	8 75	大 原 "	ブロック平家	1	36 00
下 "	"	1	8 75	計			308 25
麓 駐 在 所	"	1	18 00				

(ハ) 庁舎その他

区 分	構 造	棟 数	建 坪	区 分	構 造	棟 数	建 坪
庁 舎	木造平家瓦葺	4	144 40	東 部 消 防 会 館	木造平家瓦葺	1	6 00
川 原 保 育 所	"	1	61 50	フ ル ト ー ザ 車 庫	ブロック平家	1	12 00
麓 消 防 会 館	"	1	13 50	公 民 館	木造平家瓦	4	124 00
川 原 "	"	1	19 50	計			380 80

II 普通財産 (山林)

字	地 番	筆 数	台 帳 面 積	備 考	字	地 番	筆 数	台 帳 面 積	備 考
小 横 峯	2.291外	3	145坪00		串 目 川 原	4.539	1	1.895坪00	
横 峯	4.512の外	9	401.00		八 ノ 尾	2.304	1	2.300.00	
永 田 尾 崎	3.982外	6	209.00		柞 ケ 平	5.249	1	5.779.00	
込 尿	4.192 4.193	2	83.00		刈 切	5.220の1	1	5.650.00	
極 栗	4.142の2外	9	1.698.00		先 中 野	4.920の1	1	1.035.00	
山 口	4.156外	4	515.00		麓 田 原	4.581	1	832.00	
平 山	5.123外	29	574.00		大 牟 礼	4.553	1	7.525.00	
大 牟 礼	4.557外	2	273.00		川 床	5.209の2	1	1.927.00	
牧	4.403外	3	331.00		松 崎	4.956	1	455.00	
楠 八 工	4.225の1の3	2	345.00		川 前 堀 之 瀬 戸	4.371	1	3.337.00	
川 床 刈 切	4195の15197の1	2	274.00		麓 溝 ケ 元	4.378の1	1	2.106.00	
西 柳 田	5.745外	4	41.00		麓 田	4.238の1	1	382.00	
三 本 松	5.624外	3	145.00		赤 石	4.253の1	1	810.00	
永 田 後	3.900の1外	8	249.00		埴 ケ 迫	4.368の1	1	285.00	
高 野 長 野	4.496外	8	4.925.00		都 合 山	4.684の1	1	275.00	
船 地 迫	3.339外	5	109.00		島 山	4.686	1	914.00	
長 野	4.501の2	1	395.00		滝 ノ 上	1.081の2外	3	79.00	
横 峯	4.505の1	1	1.195.00		計			47.295.00	

(ロ) その他

字	地 番	筆 数	台 帳 面 積	備 考
扇 畑	3.448外	4	63坪03	
尾ノ尾	2.409	1	307 田貸付地	
計			66.10	

種 別	金 額	預 金 先	備 考
減 債 基 金	531.166	鹿 児 島 銀 行	
一 般 積 立 金	105.500	田 代 農 協	
奨 学 資 金	179.864	"	
土 地 購 入 資 金	205.100	"	
計	1.021.630		

種 別	金 額	備 考
勤 業 銀 行 株 券	2.250	250円1枚500円4枚
ラ ジ オ 南 日 本	200.000	50,000円×4枚
計	202.250	

巴會員 岩下尚之

りでなく普通水稻も掛け
声程の収量ではなく、薬
みの農作であつたようで
す。こうして考え見ますと
今更のように米作りのむづ
かしさを感じさせられます
米取りの夢これは、私共
米作りになつざる者の
願いであると思います
三十年頃より米作日本一は
六石のラインを破り七石八
ます

今年は前期の巴まされ
種子の到着が遅れ植え付
けが遅れました前期の植え
付の遅れは後植えの植え付
けも遅らせる結果になりま
したので他町村に比較して
平均一石余りも収量が下つ
てしまつたと思います
しかし初年度にしてはま
す

く良い成績だつたと思
ます

二期作は、とり多量の果実が
ありましたが、新らしい
品種や技術的な問題に十分
な確信を持つて私共数名の
巴会員はこれを行い、本村
で始めて水稲の二期作に成
功しました。そこで今年の
（一）実施経過と今後の改善
品種は前期が「巴」より
前後期の収量が最高二十七俵
（平均二十二俵
ざつと平年作の二カ年分
と云えると思います）

れらの簿記と年と共に記帳部数が多く、つて参つて居りますが、唯我々は記帳みにとだわつて、これの計と検討が分になされて

麦の生育は、二・三葉の時期になり、地上部の發育は進みませんが、これから冬の間の發育が進んで参りますから、中耕除草を早目にし、根の發達、肥料の吸収を助けてやるようにしなければなりません。これから早播ぎの場合は播種量を増して（中旬頃では九リットル位）芽出しをして播くといひでしよう。

昭和三十四年水稲二期作栽培の実施経過と今後の
よせを致しましょう。
十一月植の場合もこれから寒くなり、場合も悪くなりまして、根部の発育が害されまして、溝を充分にさらえて、高畦に於て水はけをよくしましょう。
追肥は早植の場合は、二回目を中旬迄に硫酸アンモニア基肥に堆肥の少ない場合は早目であれば堆肥の追肥もよいでしょう。
一、麦 早播の麦では二・三葉の時期になりまして、地上部の発育は進みませんがこれから冬の間の根の発育が進んで参りますから、中耕除草を早目にやり、根の発達、肥料の吸収を助けてやるようにしましょう。
これは早播の場合には播種量を増して(中旬頃では九リットル位)芽出しを速く播くようにでしょう。

麦は酸性にはよく、発育致しませんので石灰と燐酸肥料をよく考えて使用しましょう。
一、蔬菜 各種類毎によく栽培されて生ずるが良好に発育しておられますが、収穫も近まつて来ますが、今年の場合大豆根、白菜類に病虫害の発生が多かつた様ですが早目に中耕、除草を繰り返り、暖かい間に追肥を終つておきましょう。薬剤はダイセン、D.T.を数回撒布すると防除出来ます。
二、飼料作物 早く播付された飼料作物タバコ、エンバク飼料草種類も思ひ切つた間引きを行つて飼料に使用しましょう。エンバク、ベツチは地土四十寸位の所から刈取ると後四寸位の芽立がよい。中耕、除草も早目に、排水を充分にして根の発育を助けましょう。

实践事項

(一) 年末には、過去一年を省みて、取引関係や其の他の締結りをしつかりました。(二) 年の初めには、はつきりした、一年の計を立てました。(三) 年の初めには、神社、お寺、お墓に一家揃って参りました。(四) 正月三日間は、国旗を掲げて新年を祝ひました。(五) 門松は枝松にしました。

声

仔牛の放し飼取締りに
ついてお願い

私は貧しい一農家の主婦

内、理科は二品以内に止めますよう。
外、年始会に参加して、形式的な回礼は止めまして、(一) 回礼は、男三日、女上日以内にすませ、午後九時以後は遠慮しまして、(二) 七草祝は、子供本位、家族本位簡素にし、(三) 年末年始の浪費をついし貯蓄しましょう。

です。私が毎日く馬糞を拾つてあるいやつと播いた野菜の種子も芽のでたに、となり近所の大農家の放し飼いにされた、わとりのために見るも無様

出入口緑側などふだん多く

去年にも同じく、又五年続きの農作で街行く人の顔も明るく、正月を間近に臨めるのしめくりで職場も家庭も活気づいていました。毎年この時期は泥棒のかせき時で、昼間の疲れてぐっすり寝込んだところをねらう忍び込み留守にした家をねらう(空果ねらい)や「スリ」の被害が多くなります。一年間仿いでなくわたしたちをゴッソリやらせたのはまだましです。その被害の原因は相変わらず家を開放しのまま留守にしていたので、雨戸を守りたてても、雨戸をしめていても錠がけないもの戸締りをしないで入られたが全体の半数以上も占めた。次に錠は取り付けてあつたがそれをかけ忘れたために入られたものが多く、これに比べると合鍵を使つたり錠をこわしたり戸をはずさへ入つたものは僅かな数にすぎない。

一、戸締りを確実に盗難被害のはほとんどが戸締りの設備が十分でないかつたのが原因になつています。まず錠をかけける工夫が大切で、戸締りが簡単にできするように、例えば雨戸、ガラス戸等には人目につかぬところに釘を差込んでおくといふ最もよい方法があります。一家揃つて出かける時は戸締りにして特に念を入れて隣近所に留守をたのんでおくことが大切です。たとえ一寸だか大切です。戸締りもせず出かけたります戸締りは禁物です。

二、戸締りを確実に盗難被害のはほとんどが戸締りの設備が十分でないかつたのが原因になつています。まず錠をかけける工夫が大切で、戸締りが簡単にできするように、例えば雨戸、ガラス戸等には人目につかぬところに釘を差込んでおくといふ最もよい方法があります。一家揃つて出かける時は戸締りにして特に念を入れて隣近所に留守をたのんでおくことが大切です。たとえ一寸だか大切です。戸締りもせず出かけたります戸締りは禁物です。

三、現金や貴重品は分けてしまふのが安全

万一場合を考えてたくさんのお金や貴重品をまとめておくことは危険です。誰も気がつかないようになとここに分けてしまふのが安全です。

四、スリに御用心

(1)年末年始の人混みの中にはスリが多いです。外出する時には心要以上のお金や品物は持ちません。

まゐるようになして下さい。

乗物百貨店その他人混みの中では持ち物に注意して、カバン、買物籠、ハンドバツク等は胸のあたりに抱えるようにしましょう。

わざと足をふんだり、突き当たったりするものがないてあやしいと思われる場合は、まよいに充分気をつけて席をかえるようにするのが安全です。

五、被害を受けたらすぐ警察へ、

災難は思いがけない時に受けるものです。運悪く被害にかゝつた時は、現場はそのままにしてすぐに警察へ届け下さい。お互いの注意と用心で盗難をなくして全部の家庭がそろつて楽しい明るい平和な正月が迎えられるよう協力して下さい。

大根占警察署

六〇年には国際連合食糧を所有した。

けせめてお通日参りを異界より
で情重むがをに加ま罪累り
なすに要國に期しし施業世報
くさかなでなしし。す世界
一とん位はりてよるんソの
反しが置林業調査がしサー
うにみえ業林し宜よとス
上名し占がたを來でに○の
めてで庭。災年もない○の
山農業と施と施二つう國主
にのかさ万といひ査県寺々
利みにれ余もうを。等ん
用なし。の謂こい國のい
してや調査の查たのほこ
すて國が調べはれ難すたはこ
う。國員き農林市林市会
た般都のにも林業とに町社
だの道農よの七に二つ村
くが府林つて基なし。國
のた市業と約本サリて都体
がが町明農二調査も道
目た村ら施○調とし調府市
ますめし都お業れな業來す世
ににの道きせて政に。都
警必基業ん居な業來す世
ににの道きせて政に。都
に必要本県ししやに。たのた
をな。の。ス時持りてよ
り基な市はにす期ち見う
る礎政財もよ。に樹造た
以下木を
この案材村ちつそてして英
たおんをちてくるなを情屈
とて統制おるにでとけもし
た計るきの火費いれしつら
りけり寄たき事しに費費た

